



2014年5月15日
セントラル野球連盟
パシフィック野球連盟
スカパーJSAT株式会社

3・4月度「スカパー！サヨナラ賞」受賞選手発表

セントラル、パシフィック両リーグが制定する月間「スカパー！サヨナラ賞」(協賛:スカパーJSAT株式会社)の3・4月度受賞選手が決定いたしました。受賞選手には、スカパーJSAT株式会社よりトロフィーと賞金 30 万円が贈られます。

～ セントラル・リーグ 受賞選手 ～
ブラッド・エルドレッド
(広島東洋カープ)
初受賞

エルドレッド選手は、4月27日(日)マツダスタジアムで行われた対読売ジャイアンツ6回戦、0対0の同点で迎えた延長11回裏無死1、3塁の場面で、左翼席上段に突き刺さるサヨナラ本塁打を放ちました。

首位攻防となったこの一戦は、両軍エースの投げ合いで延長戦に突入。この一発で息詰まる投手戦にピリオドを打つとともに、チームは球団初の4月16勝をマークし4月の首位を確定。併せて、チームの延長サヨナラ本塁打月間3発はプロ野球史上初の快挙と、自身来日3年目で初のサヨナラ本塁打は記録づくめの一発となりました。

～ パシフィック・リーグ 受賞選手 ～
アンドリュー・ジョーンズ
(東北楽天ゴールデンイーグルス)
初受賞

ジョーンズ選手は、4月22日(火)コボスタ宮城で行われた対埼玉西武4回戦、1対1の同点で迎えた延長12回裏、二死走者なし、2ボール0ストライクの場面で、センターへサヨナラ本塁打を放ちました。

この日のジョーンズ選手は、1点を追う8回裏にも二死から同点本塁打を放つなど大活躍。ルーキー西宮投手に初勝利をもたらしました。ジョーンズ選手のサヨナラ打は来日2年目で初めてとなります。

月間「スカパー！サヨナラ賞」は、月間を通じて最もインパクトのあるサヨナラ打を放った選手に贈られる賞として2012年に制定されました。スカパー！は、2006年シーズンから「プロ野球セ・パ両リーグ公式戦全試合、プレイボールからゲームセットまで放送」(※トップ&リレー、録画放送を含む)を掲げており、「試合終了最後の1球まで真剣勝負をお届けするスカパー！」から多くのファンに、プロ野球中継最大の魅力を伝えることができ、それがプロ野球界発展の一助となると考え、本賞へ協賛しています。また、同様の趣旨のもと2009年シーズンから、レギュラーシーズンを通じて最も劇的なサヨナラ本塁打、またはサヨナラ安打を放った選手に贈られる賞として「スカパー！ドラマティック・サヨナラ賞 年間大賞」を制定しています。



(参考)過去の受賞選手

【月間「スカーパー！ サヨナラ賞」】

2012年度		
受賞月	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
3・4月度	中村 紀洋 (DeNA)	田中 賢介 (日本ハム)
5月度	森野 将彦 (中日)	A.バルディリス (オリックス)
6月度	和田 一浩 (中日)	M.ホフパワー (日本ハム)
7月度	石原 慶幸 (広島)	柘田 慎太郎 (楽天)
8月度	阿部 慎之助 (巨人)	柳田 悠岐 (ソフトバンク)
9月度	新井 良太 (阪神)	松井 稼頭央 (楽天)

2013年度		
受賞月	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
3・4月度	福留 孝介 (阪神)	松田 宣浩 (ソフトバンク)
5月度	畠山 和洋 (ヤクルト)	浅村 栄斗 (西武)
6月度	M. マートン (阪神)	高橋 信二 (オリックス)
7月度	丸 佳浩 (広島)	嶋 基宏 (楽天)
8月度	長野 久義 (巨人)	浅村 栄斗 (西武)
9月度	石原 慶幸 (広島)	片岡 治大 (西武)

【スカーパー！ ドラマティック・サヨナラ賞 年間大賞】

受賞年	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
2009年度	亀井 義行 (巨人)	井口 資仁 (ロッテ)
2010年度	天谷 宗一郎 (広島)	小久保 裕紀 (ソフトバンク)
2011年度	長野 久義 (巨人)	松田 宣浩 (ソフトバンク)
2012年度	和田 一浩 (中日)	中田 翔 (日本ハム)
2013年度	長野 久義 (巨人)	浅村 栄斗 (西武)

以上